



# の・び・の・び

## 子どもの回りには危険がいっぱい

ひとり歩きを始めると、好奇心も発達していろいろなことに興味がわきます。そのため、浴槽の湯船に興味をもちのぞきこんだ時に思わず転落し溺れる事故を起こすことがあります。1歳～9歳までの子どもの死亡原因は「不慮の事故」が最も多いと言われています。しかし事故によっては予防が可能なこともありますので、大人が気をつけて事故につながらないようにしていきましょう。

### <起きやすい事故>

- 誤飲事故（小さい子どもはリビングで起こしやすい）

薬、たばこ、化粧品、洗剤、コインなどを誤って飲んでしまう。

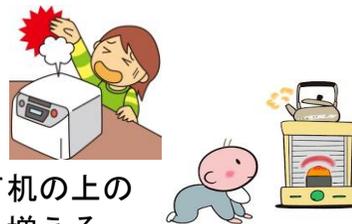
特に洗面所やトイレは芳香剤や洗剤などが置いて保管している場所。危険なものがたくさんあり誤飲が中毒につながる。必ず、子どもの手の届かない場所、触れない場所に保管する。

最近口に箸や歯ブラシをくわえたまま転んで怪我をする事故が増えてきている。「箸を持つのは食事の時」、「歯ブラシは歯磨きをする時」など習慣をつけて事故を予防する。



- やけど（キッチン・ダイニングはやけどをしやすい場所）

ガステーブルの上の鍋に手が届くと調理したものでやけどをする。また炊飯器の蒸気やポットのお湯などの電化製品によるやけどや、テーブルクロスを引っ張って机の上の熱い飲み物や食べ物をかぶりやけどをする。冬になると、暖房器具などのやけども増える。やけどの原因になるようなものは子どもの手の届かない場所に置くか触れないようにガードをする。



- 転倒や高所から転落

ベランダの柵が子どもより高くても、子どもが運べる椅子や台などをそばにおいてあると、それを使って転落し、大きな怪我につながる。また、公園の遊具の高い所から転落するなど、成長とともに高いところからの転落も増える。ベランダには子どもの足台になるようなものは置かないなどの注意が必要であり、遊具で遊んでいる時は子どもから目を離さない。



- 交通事故

年齢が高くなると交通事故が増える。子どもには、言葉の注意は通用しないということ！言葉がけをしても、大人が手を離していれば道路に飛び出すのが子どもです。必ず大人が手をつなぐなど、体を使って防ぐことが大切。これは道路だけでなく駐車場内も同じこと。

### ★ はちみつを与えるのは1歳を過ぎてから！！★

1歳未満のお子さんがはちみつが原因と思われる乳児ボツリヌス症で死亡する事故がありました。子育て中のお母さん方は、「はちみつは1歳を過ぎてから」ということは知っていても、周囲の人が知らないこともあり、それが事故につながります。小さいお子さんは与えられるものは食べてしまいますので、お母さん、お父さんが周囲の人に危険であることの情報伝えて、お子さんを事故から守ってあげましょう。



## 健康な体づくりが かぜ予防



気温が下がり、空気が乾燥してくると、気をつけたいかぜ。うがいと手洗いが、かぜの予防の基本です。また、規則正しい生活で、ウイルスを寄せ付けない強い体を作ることも、大きなかぜ予防になります。

石けんで  
手をあらう



がらがら  
うがい



3食  
しっかり食べる



早寝・  
早起き



※ これからの季節、咳がでることも多くなります。子どもも大人も咳が出る時は「咳エチケット」でマスクをつけましょう！

※ 口の中をきれいにしておくことは、むし歯予防だけでなく、インフルエンザ予防にもなります。きちんと歯磨きの習慣をつけて、定期的に歯科健診も受けてきれいなお口を保ちましょう。